



商工中金景況調査（2024年2月調査・定例分）の公表について

商工中金は概ね四半期に一度、中小企業の景況感などの実態把握のため景況調査を実施しており、今般2024年2月調査のうち毎回共通の質問項目（定例分）の結果について公表しました。

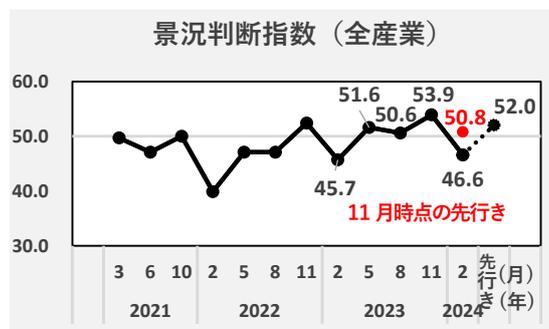
<2024年2月の景況感>

2月の景況判断指数は、昨年2月以来の「悪化」超

2月の景況判断指数は46.6と、昨年2月以来の「悪化」超となりました。先行きは52.0と再び「好転」となる見通しです。

2月は全地域で指数が低下しており、特に北陸地方では大幅に下落しました。

業種別でも輸送用機器をはじめ多くの業種で指数が低下しております。唯一、小売業では前回（11月）調査対比でプラスとなり、インバウンド需要の増加を実感する声も聞かれました。



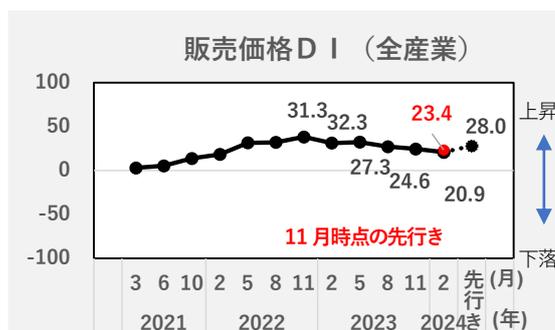
<2024年2月の業況判断>

【販売価格】「上昇」超幅は緩やかに縮小、運輸業等で先行きは大幅「上昇」

販売価格について、「上昇」超幅は緩やかに縮小し、11月時点の先行きを下回りました。

先行きは再び上昇見通しとなります。

特に運輸業では、先行きのDIが大幅に上昇しました。事業者からは運賃値上げに関する内容など、交渉環境の変化を実感する声が聞かれました。



- ・本編資料は[こちら](#)をご覧ください。
- ・トピックス調査分（「物流の2024年」問題に対する中小企業の動向）は4月中に公表予定です。